あなたの「まなび」をナビゲート！ enjoy lifelong learning

ma·navi

生涯学習とっとり
vol. 185
2019.11
鳥取県生涯学習情報誌

みんなの居場所「ぽっと」ですごす子どもたちと学生ボランティア

特集

すべての人が「いていい場所」

みんなの居場所「ぽっと」

04 私たちの活動を紹介します！
三朝とちもちぞうに縁JOY会（三朝町）
05 とっとり県民カレッジ連携講座情報（11・12月）
とっとり県民カレッジで熱心に学ばれた皆さんを紹介します
23 鳥取の文化財について学ぼう！
25 鳥取県立生涯学習センター（お知らせ）
27 みてみて♪こんなんしとるで～

ミーティング中に一息！　大谷さん（中央）と学生ボランティア

すべての人が「いていい場所」

みんなの居場所「ぽっと」

無料塾、子ども食堂、ボードゲームカフェ、放課後児童クラブなど、子どもの居場所づくりに取り組む「みんなの居場所『ぽっと』」。活動について、教育の専門家として子どもたちに関わる大谷直史（おおたにただし）さんと学生ボランティアのみなさんにお話を伺いました。

子どもたちにとって必要なサードプレイス

鳥取市湖山町にある「みんなの居場所『ぽっと』」（以下、「ぽっと」という）。子どもの成長には、家庭と学校以外の第三の居場所（サードプレイス）が必要だと感じた大谷さんが、平成20年に開設しました。

およそ築150年の大きな古民家の１階が、子どもたちの居場所です。学校が終わると、子どもたちがつぎつぎとやってきて、宿題をしたりボランティアの学生と遊んだり、それぞれ思い思いにすごします。

学生ボランティアに宿題をみてもらう子どもたち

ふらっと遊びにきてもかまわないんですよ

（鳥取大学教員養成センター　准教授　大谷直史さん）

私が活動をはじめようと思った原動力は、「子どもの貧困問題」。育った家庭によって、子どもの運命が決まるのはどうなのだろうかと思って。なんかこう、家族をちょっと広げていくような、いろいろな人と親密な関係を築いたり、遊びにきたり、ご飯を食べたりできるような場所があるといいなと思いました。だれでも自由に来てもいい場所をつくることで、格差を少しでも埋めるような仕組みを作りたいと思ったのが、活動をはじめたきっかけです。

「ぽっと」ができた当初からある無料塾は、今でも毎週土曜日に開かれ、小・中学生のほか、受験前の高校生も利用します。

また、必要に応じて、子どもたちといっしょにご飯を食べることもしてきました。２年前からは「こども食堂※」にも取り組んでいます。こども食堂では、「ぽっと」の活動に共感してくださる地域の方が、ボランティアで食事を作ります。また、これまでも地域の方や子どもたちの祖父母が畑でできた野菜を持ってきてくれていましたが、こども食堂がはじまると、企業からも肉や魚などの提供を受けることができるようになりました。

さらに、今年の４月からは、鳥取市の学童保育にも取り組み、たくさんの子どもたちが「ぽっと」で放課後をすごしています。

関わり合いの中で生まれる関係性

大谷さんは、誰かがこの家に住んでいる状況に意味があると考え、自ら「ぽっと」に住み、24時間体制で対応します。

また、ボランティアの学生や地域の方には、支援をしたり教えたりするのではなく、子どもたちとの関わり合いの中で生まれる関係性を大事にしてもらうように伝えています。「子どもたちがきたら、すれ違うときにちょっと遊ぶとか。何か特別なことをするのではなく、なんとなくいてもらうことが大事だと思っています。そして、できるだけいろいろな人がまじっているほうが理想」と話します。

ボードゲームでコミュニケーション！

「ぽっと」での遊びの1つに、ボードゲームがあり、子どもたちにとても人気です。「ボードゲームは完全に私の趣味からはじまりました」と、大谷さんは笑います。「テレビゲームが悪いわけではないですが、テレビゲームよりも楽しいことがあれば、子どもたちはそっちを選ぶだろうと考えました。じゃあ一体それは何だろうと。たどり着いたのがボードゲームです」と続けます。

みんなが夢中になるボードゲーム

また、ボードゲームは、対人関係が苦手な子どもにとって、有効なツールともいわれています。普段の生活の中で、本音をいうことができなくても、ゲームの世界だから、逆に本音が言えることもでき、喧嘩もできます。仮想の世界であるがゆえに、人間関係が深いところまでつくれるのではないかと大谷さんは考えます。

「ぽっと」の中にある日本や世界各国のボードゲームを集めた、通称「ゲーム部屋」

目標は、地域の中の駄菓子屋さん！

「目指すのは、地域の中にある駄菓子屋さんのような場所」と大谷さん。活動をはじめて２０年目。「子どもたちが、ふらっと来て、遊んだりご飯を食べたりできる、そんな場所にしたい」と話します。さらに、社会的にもひきこもりが大きな問題になっているなか、「ひきこもりの人が社会に出る前のワンクッションのような場所にもできれば」とほほ笑みます。

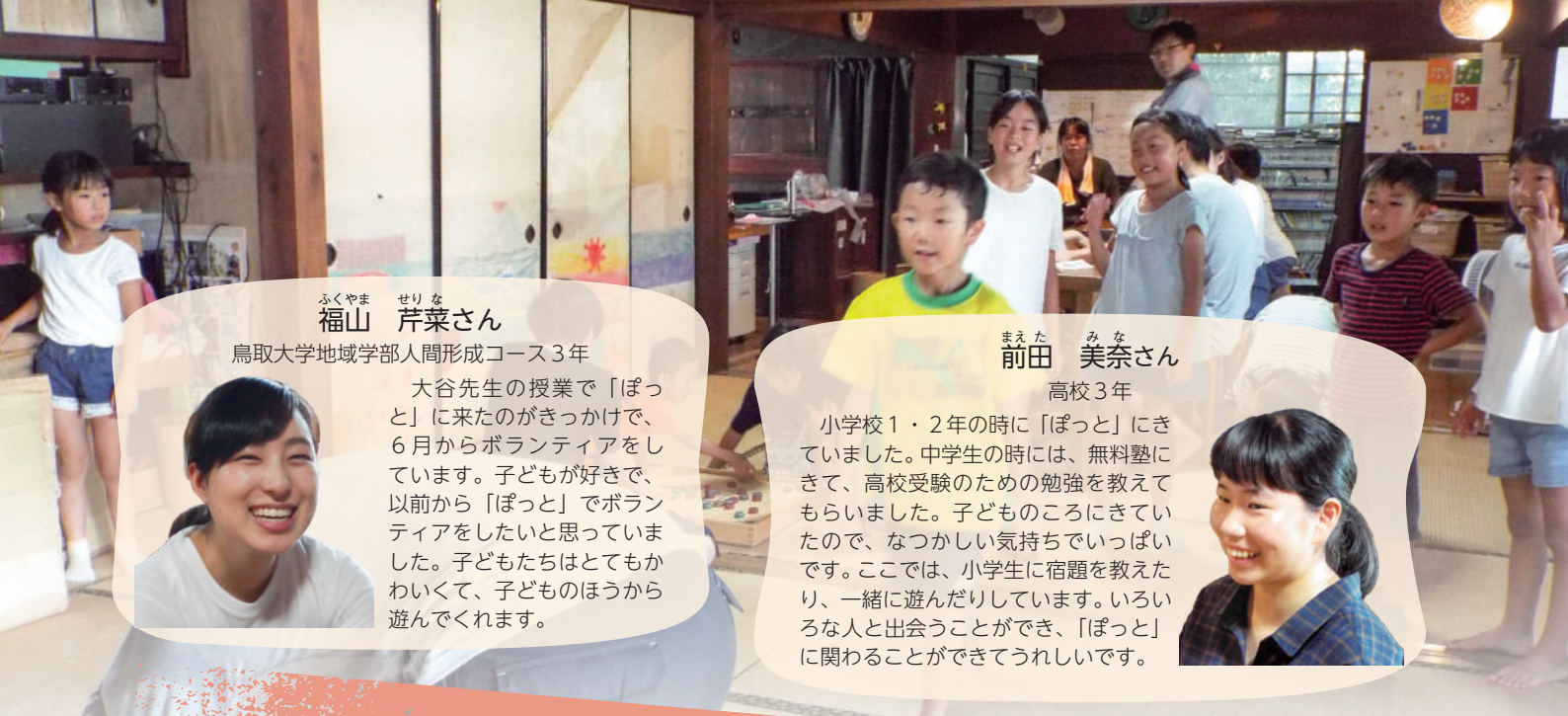
「ぽっと」で歌の練習をしている歌声サークルと、子どもたちがコラボで歌ったことも。いろいろな人が集うことで、新たになにかが起こるような、そんな出会いも大事にしながら、すべての人が「いていい場所」を目指します。

※こども食堂：地域住民や自治体が主体となり、子どもや保護者、地域の人に対し食事を提供するコミュニティの場

子育て・市民活動の経験者で、「ぽっと」の活動に中心的に関わる「あきさん」

ご飯を食べに「ぽっと」にしょっちゅう来ていた学生が、結婚して赤ちゃんが産まれたから、見せたいと言って訪ねてくれたり、鬱で元気がなかった人が、少し元気になったから電話をかけてきたり。何かあると私たちを思い出してくれ、慕ってくれるのはとてもうれしいですね。

「ぽっと」にいろんな人がきて、「こういう場所っていいよね！」「家族でもないけどいいよね！」と感じ、そんなセンスをここで身につけた人が、今度は他の人に伝え、ちょっとずつみんなにそのセンスが広がっていけばいいなと思います。



学生ボランティアにインタビュー

福山（ふくやま）　芹菜（せりな）さん

鳥取大学地域学部人間形成コース３年

大谷先生の授業で「ぽっと」に来たのがきっかけで、６月からボランティアをしています。子どもが好きで、以前から「ぽっと」でボランティアをしたいと思っていました。子どもたちはとてもかわいくて、子どものほうから遊んでくれます。

前田（まえた）　美奈（みな）さん

高校３年

小学校１・２年の時に「ぽっと」にきていました。中学生の時には、無料塾にきて、高校受験のための勉強を教えてもらいました。子どものころにきていたので、なつかしい気持ちでいっぱいです。ここでは、小学生に宿題を教えたり、一緒に遊んだりしています。いろいろな人と出会うことができ、「ぽっと」に関わることができてうれしいです。

西垣（にしがき）　祐紀（ゆうき）さん

岡山理科大学大学院１年

実家が「ぽっと」の近くで、中学３年生のときに初めて「ぽっと」にきました。今は、大学でコンピューター関係のことを学んでいるので、その部分でなにかお手伝いができればと思い、夏休みを利用してボランティアに参加しました。雰囲気づくりのために音楽を流したり、ボードゲームで子どもたちと一緒に遊だりしています。

片山（かたやま）　真純（ますみ）さん

高校３年

「ぽっと」でのボランティアは、友だちに誘われてきました。小学生はとても元気だと思いました。子どもたちとふれあうのは楽しいし、来て良かったと思います。将来は教師になりたいです。

外でも元気いっぱい！

色々な遊びが自然にはじまります

「ぽっと」の仲間

ミギちゃん（写真左）とヒダリちゃん（写真右）も子どもたちとすごします♡

連絡先　**みんなの居場所「ぽっと」**

〒680-0941　鳥取市湖山町北１-664
TEL090-8428-3089（大谷さん）
e-mail：ibasho.pot@gmail.com

フェイスブック

私たちの活動を紹介します

三朝町 三朝とちもちぞうに縁 JOY 会

寄稿：会長　中村（なかむら）　恭久（やすひさ）さん
＜連絡先＞　0858-43-3131（三朝町商工会 井上さん）
＜設立年＞　平成 24 年
＜会　員＞　メンバーは、活動の趣旨に賛同する有志（三朝町内外を問わない。）幅広い年齢のメンバーで活躍しています。

食のみやこフェスティバルに出店

「とちもちぞうに」を発信中

私たちは「とちもちぞうに」を三朝町から発信しています。活動内容としては、町内の住民の方を対象に食文化に関する調査を行ったり、保存技術の継承（あく抜き方法の DVD 制作）、情報発信等を行っています。

「雑煮」が珍しい県

鳥取県は全国的にみると珍しい、甘い小豆雑煮を食べることで知られています。小豆雑煮は鳥取県を除くと島根県東部、岡山県北部、兵庫県北部等の一部地域でしか食べられていません。その中でも、三朝町は栃の木が「町の木」になっており、古くから山間部を中心に白餅だけではなく、とちもちを雑煮に入れて食べる習慣があります。そして、とちもちを食べると「中気（ちゅうき）(※)」という病にかからないと言い伝えられ、子どもに必ず食べさせるものでした。加えて、三朝の名の由来は「３回朝を迎えると病が治る」というもので、その朝とは、「一年の朝、一月の朝、一日の朝」の三つの朝に起因していると言われています。古くからお正月の祝い膳に必ずある雑煮「三朝とちもちぞうに」は、大変縁起のいいものです。

目の前でついた、つきたてのお餅を提供します。

地元の方に向けても PR ！

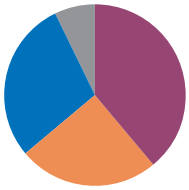
会では、「とっとりご当地グルメフェスタ」等のイベントへの出店に取り組んでいます。これまで出店したイベントでは、食事・持ち帰り共に完売が続出！三朝とちもちぞうにを多くのお客様に知っていただくことができました。

これからも三朝とちもちぞうにの認知度を高め、三朝温泉への誘客につなげるだけでなく、地元の方にも地域に対して誇りを持ってもらうことを目標として活動していきたいです。

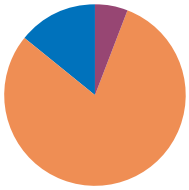
（※）中気とは、脳卒中、中風（ちゅうふう）とも呼ばれる。

三朝町内（賀茂・高勢・三朝・竹田・小鹿・三徳）
正月の雑煮に関するアンケート

お正月はどのような雑煮を食べますか？



お正月の雑煮にはどのようなおもちを入れますか？



「※平成24年実施」

毎年倉吉市で開催される、
『中部発！食のみやこフェスティバル』には
必ず出店し三朝温泉を PR しています。
私たちの活動・とちもち雑煮に
興味のある方、一度お越しください。